

会 議 録

会議の名称	第7回西東京市男女平等参画推進委員会会議録
開催日時	平成14年11月12日 7時から9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎502会議室
出席者	(委員)堀口委員、加藤委員、神島委員、赤石委員、今城委員、岩西委員、佐藤委員、高橋委員、田口委員、角田委員、名古屋委員、西山委員、淵脇委員 (事務局)三芳主幹、岩田係長、森山主査、インテージ1名
議 題	1 アンケート項目の検討 2 その他
会議資料	1 第7回西東京市男女平等参画推進委員会資料 2 国民生活白書(平成9年)働く女性 新しい社会システムを求めて 3 保育整備で出生率回復へ
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発言内容
委員長	25日に調査票案の検討を行うために今日はアンケート項目の検討をしていく。8時30分をめぐりに関心のあるグループに分かれてグループ別に討議する。後の約30分で各グループの内容の共有化ということで、グループごとの話し合いの中身を5分ほどで分かりやすく報告していただきたい。また、アンケート項目として出さないといけないので、記録を残して話し合いをしていただきたい。個別に設定することは可能かもしれないが、グループに分かれてじっくり話し合いをするのは今日しかないと思うので、これから約1時間20分を各グループ有効に使って討議をしていただきたいと思う。よろしくお願いします。
委員	就労に希望を出して承認をいただいたが、今、男女共同参画あるいは男女平等参画の意味が注目をあびているところでもあり、意識づくりに移動したい。就労も興味があるが、就労には専門家の方がたくさんいらっしゃるの得心強いということもある。
委員長	意識づくりのところはこれからいろいろ難しい問題もでてくる。全国でバックラッシュの嵐も吹き荒れている。人数の点もあるが、いい提言かと思う。よろしいでしょうか、よろしくお願いします。
委員	アンケート項目についてということで、具体的に説明するということが、どのくらいのところまでここで練るのか具体的に示していただきたい。大きな項目だけでいいのか、もっと具体的に選択肢のところまでやるのか。今日のグループの話し合いはどこまで意見を詰めるのか。
事務局	最後の5分では全部お話いただくのは難しいこともあると思う。それについては、次回調査票の形になったときに確認していただくことができるので、最後の5分では、こういう目的でこういう調査項目をやってほしいということを報告いただければいい。 ただ、調査票の形をつくるにあたっては、どんなものが選択肢として考えられるかは大事なポイントになってくるので、言葉について細かいところまで詰めきらなくていいので、こういう意図の選択肢を入れてほしいということをは是非書き残していただきたい。選択肢の案まで書いてほしい。
委員	前回少子高齢化のグループに入るといって、少子高齢化について検討してみたが、少子高齢化と男女平等・共同参画は関連するところはあるが別問題ではないかと思う。 少子高齢化を骨子として検討するべきではないのではないか。

<p>委員長</p>	<p>なぜなら、少子高齢化は社会現象であり、男女平等・共同参画はあくまで人権の問題といえる。少子高齢化を骨子として前面に出すことは、少子高齢化のために男女平等を推進するような誤解をされる恐れがある。</p> <p>国の基本法や都の条例の前文でも少子高齢化というのが謳われてはいるが、あくまで基本理念がきて、社会の少子高齢化というのに対応するというのが考え方の道筋ではないかと思う。</p> <p>さらに、少子高齢化ということと男女平等ということについて、関連はあるが、どちらかの対策がどちらかの対策になっていたり、関連がいまひとつ分からない。旧保谷市の意識調査でも高齢について設問があったが、なぜ男女平等という目的のためにその計画骨子として少子高齢化というのを検討しなければならないのか。みなさんのご意見を聞かせてほしい。</p> <p>今日配布の資料7-2、7-3を見てほしい。</p> <p>少子化の問題というのはある意味社会現象という部分もあるが、資料7-2の2枚目の図を見ていただくと、スウェーデンの場合、一旦は少子化の傾向が持ち直したが、徐々に少子化となり、また最近では出生率が回復している。非常に低下傾向にある国々はドイツ、イタリア、日本、この資料にはないがスペインということで、第二次世界大戦の枢軸国側がはっきり顕著な少子化傾向を示している。</p> <p>連合国側・北欧は少子化傾向が強くない。特にそういった国々というのは、民主主義の伝統の下に男女平等を進めるという中で、こういった問題にも取り組んでいるというのが世界的な流れである。</p> <p>高齢化の非常に大きな問題は、特に日本の場合、女性の方が男性に比べて余命が長く、婚姻している方の場合、夫のいない状態での人生が非常に長くなっている。高齢化の問題というのは、もちろん男性の問題もあるし女性の問題もある。そういった中で、高齢期になる前の問題と構造が変わっているということはある。その問題と男女平等というのが結びつかないのではないかということだが、年金・社会制度の問題などを考えると結びつく問題ではないか。今は「高齢化」という感じだが、これから21世紀の日本は「化」ではなく「高齢」という状況になっていく。</p>
<p>委員</p>	<p>事象としてはそうなるが、女性の余命が長く、高齢化が進むからといって、どうしてそれを骨子として検討することが男女共同参画にいくのかというのがよく分からない。</p>
<p>委員</p>	<p>私自身は少子高齢化というより、少子化傾向にあることは、やはり女性問題と深くかかわりがあるととらえている。少子化傾向にあるというのは、女性が産もうと思う子どもの数が現実には産めないという状況がある。それが進んできたのは、女性が働きはじめて、希望の子ども数が産めないというのは、いろんな男女平等に関する問題と関わりあっていると思う。会社に行った場合に、男性が働き過ぎ、女性も働いて、家に帰ると家事分担を多くしている。男女不平等の社会現象の中で少子化が進んでいる。本当に女性が産みたいと思っている子どもの数が産めるような社会状況をつくっていくところでの問題点をあげていけばいいと思う。</p> <p>高齢者問題については、年をとって一人で暮らしたりしたときに、まだまだ社会の中では弱者という状況があるので、地域や家庭でいきいきと暮らすためにいろんな問題を考えていかなければいけない。いきいきと暮らせる高齢社会をつくるために今後の体系をあげていけばいいと思う。それで女性問題とかがわっていると思う。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>少子高齢化対策が男女平等対策にもなるということか。</p> <p>国のために子どもをたくさん産みなさいということではない。自分が産み育</p>

委員	<p>てたいという数を産めるような社会にしていく。自分が生きたい社会にするために今何を考えていけばいいかと考えていくといいかと思う。</p> <p>「少子高齢化」と考えるよりも、子育てと高齢者問題にかかわる男女平等施策というように考えたほうがいいのではないか。</p> <p>男女の一生を考えるうえで、子どもを育てるということをどのように行うか、高齢者にかかわること、介護などをどのように行うかということは非常に男女平等ということと密接にかかわっている。</p> <p>前から性別役割分担とか問題になっている。女性が家で子どもを産み、介護をし、男性が外で働くというのが一般的社会、性別役割分担であった。それが徐々に変わりつつある。そこが変わっていくことがキーポイントになるとすれば、子育てと介護の問題というのは一番密接にかかわってくる。就労の問題も、働き方をどうするか、家の中の男性のかかわりをどうするかというのと平行なわけだが、だから少子高齢化というより、子育てと高齢者問題についてどのように考えていくのかというのが大きな柱なのかと思った。実際、今少子化対策として政府で提案されているのは、ほとんど男女平等施策に近いもので、そういうことが根にあるからだと思っている。</p>
委員	<p>代表的にあらわれるのが、高齢者の介護の問題。女性の余命が長いという話が出たが、現状では年上の夫と結婚している場合が多いので、老老介護ともいわれているが、高齢者の妻という配偶者が介護をしている。その次に多いのが嫁、その次は娘と、介護を担っている担い手は 85% ぐらいが女性だといわれている。介護保険も導入するということが社会化されたのはいいが、在宅介護の方向へ向かっていて、引き受け手の側がどういう状況かということ、ほとんど女性が引き受けているという現状がある。それは男女平等という観点から見ても、家庭にもっと男性が入っていかねばいけないという問題にかかわること。少子の問題もスタンスとして性別役割分業を払拭して、男性が家庭にかかわることが重要ということがある。身近な生活の中の男女平等と高齢社会の問題というのはかかわり深いのではないか。</p>
委員長	<p>子どもを産む・産まないというのは個人のライフスタイルの選択だけではなく、人権の問題でもある。</p> <p>『男たちの産む、産まない』という本の中で、赤ちゃんのおむつだけは処理しないで、父親はトイレに置きっぱなしになっているということが出ていて、そういうところからも見えてくる問題ではないか。「自分以外のうんちの世話をしたことがあるかどうか」ということで、育児も介護も赤ちゃんと高齢者の世話をしているのは圧倒的に女性が多いのではないか。</p> <p>時間をとったがこの問題は他のグループとも密接にかかわる問題であり、重要な話し合いができたと思う。後は少子高齢のグループの中で議論を深めていただきたい。</p> <p>今から 8 時半までそれぞれ討議をしていただき、終わった後で中身の説明をどなたか 5 分間でしていただく。出た内容については書いたものを提出していただく。お願いします。</p> <p style="text-align: center;">- グループ討議の間の記録は、別紙 -</p>
委員長	<p>各グループ 5 分ずつ発表をしてもらい、共有化したい。</p> <p>「性」と人権についてまず発表する。</p> <p>「性」と人権はいろんな問題があり、柱を 5 本立てた。</p> <p>1 つめは DV について。保谷の基礎調査など先行調査があるので、ベーシックな問題よりこれからの対応ということで、「誰に相談したか」、あるいは</p>

委員	<p>「したいか」、「援助を求めたか」、「求めたいか」、その援助の中身、例えば「宿泊場所のシェルター」、「経済的な自立支援」、「相手との関係の断絶」、「子ども問題」、「加害者への支援」、「加害者への支援」というと誤解が生じてしまうのでそれについては説明を加える。その他の自由記入を入れてはどうかというように考えている。</p> <p>2つめの柱は子どもの虐待に関して。今まで保谷、田無で先行調査がないので、子どもに対する暴力がどんなことかということで、DVについての調査の子ども虐待版みないなものを聞いたらいいいのではないかと。特に「身体的な問題」、「意識の問題」、「親権の問題」とか。「親の懲戒権」ともかかわってくる問題だが、それから、「誰から」、「家族から」だけではなく、「近所の人」とか「見知らぬ人」とか、そして「どこで」、「家庭の中」だけではなく、「地域」とか、「地域」の中でも「公共の場所」、「施設」、「道」といろんな所での問題があるのではないかと。「その虐待の経験を誰かに話したか」ということを聞いたらいいいのではないかと。</p> <p>それに繋がって、子ども虐待の次に思春期というテーマを出し、「性に関する情報をどこで入手したのか」、「思春期の時にどこで入手したか」ということを聞く。1つ考えられるのは「学校での性教育」、メディアに関しては「テレビ」、地上波だけでなく、衛星放送でもそういった番組があるようなので、それから、「インターネット」、「携帯」、「メール」、今18禁サイトもあるようにそういったことを聞く。それから、「週刊誌」、「雑誌」、「スポーツ新聞」、「友人」というようなことを聞いたらどうか。それに繋げて、「STD」、「HIV」についての情報も同じように聞いてみたらどうか。という意見が出ている。</p> <p>4つめに更年期という柱を立てて、「更年期障害」を「」に入れて、「男性にあるか」、「女性にもあるか」、男性にはないと思ってる方もいると思うので、あると答えた方に、「女性の場合はどうか」、「男性の場合はどんなことが考えられるか」ということで、身体的なことに限らず、精神的なものも含めて自由記入をしてもらったらどうかという意見がでていた。</p> <p>5つめの柱として、リプロダクティブ・ライツについては「何人子どもを持つか」というのが先行調査にあるので、リプロダクティブ・ヘルスについて、「健康チェックとして定期的に健診診断を受けていますか」ということで、先程の男女の問題で、女性は特に家庭に入っている場合になかなか健康診断を受けるチャンスがないということが、こういった設問ででてくるのではないかと。それから一般的な設問になるかと思うが、「喫煙」についても聞いて、「喫煙歴」、「いつから」、「止めたことがあるか」など、そういったことを聞くということで、この内容についてはご存知のように千代田区が条例をつくっているが、単に環境の問題だけではなく、健康の問題でもあって、日本は世界に比べて喫煙率が高いので、健康保険料にしわ寄せがくる、そういう問題と、女性や男性への体への影響という問題も、調査をした後それを分析することも可能だと思うので、そういう柱を立てて内容が出ている。</p> <p>前回の議論ではあまり少子高齢独自の議論はなかったので、前回のペーパーについてこだわらずに考えた。</p> <p>1つのテーブルで4つぐらいの質問の数をイメージすればいいのかなと思いい4つの質問を想定した。</p> <p>1つめが「育児休業・介護休業を自分（男性）・夫（女性）が取りたいのかどうか」、「実際に取れるのか」、「取りにくい」、「取れない」、「それはどういう理由によるのか」、ということ聞いてはどうか。これは育児も介護も両方にまたがる問題で両立の要であるはずなのに、かなり実態の運用という</p>
----	--

委員	<p>のはおそまつなものだと思うので、そのへんを聞いてはどうか。</p> <p>2 つめとしては介護の観点から、男性の介護参加への条件や男女の話し合いの意識というのを聞いてはどうか。「自分もしくは自分の家族が介護を必要となった場合、誰が主として介護を担うべきだと思いますか」、「男性が介護を担いにくい障害としては何があるのですか」、「そのような問題について家族で話を十分にできますか」、というようなことを聞いたらどうか。</p> <p>3 つめとしては育児の問題で、少子化ということにポイントを当てていいのかどうかがあるものの、基本的には共同参画社会が進むということは、男女共に働きながら安心して子育てできる社会でなければいけないと思うが、現状はそれに反しているだろうと思う。今日見た子どもの生活と家庭の意識調査にも同じような問いがあるが、これは原則的な走り出したと思うので採用したらどうかと思う。「子どもを持ちたいかどうか」、「持つとしたら何人ぐらいほしいのか」、「実際はその数を持っているのか」、「持てないとか持ちたくないという方の理由は何なのか」、「何が障害になっているのか」、ということ聞いてはどうか。</p> <p>4 つめは、「安心して子育てするために地域行政で取組んでほしいことは何ですか」ということで、これもどこかにあったが、やはり今回のアンケートで結びつけたいのが施策なので。はじめは保育行政に絞って聞こうかという意見も出たが、今や子育てそのものが就業している母親以外のお母さんたちにとっても大変困難な問題になってきているというのが実態で、むしろ保育園があることで就業している母親は救われているということがあるということからすると、一般の人を対象に。もし自分が就業していれば保育行政に対する不満とか希望も出ると思うので、項目としては検討の余地があると思うが、「安心して子育てするために地域行政で取組んでほしいことは何ですか」という質問を入れたらどうか。</p> <p>まず、職業に関する実態の把握をすることが重要ではないか。</p> <p>1 つは、職場での男女差別の実態が変わったかどうかを知りたいので、「差別がもともとあった」、「最初から職業に関しては差別はなかった」、「少し良くなった」、あるいは「差別がひどくなった」というような変化を聞いて、その後、「職業における女性に対する不平等な扱いが存在するとすれば、それはどんなところに起因するのか」ということで、具体的には「就業期間が相変わらず短い」、「意識の問題がある」というような項目をこちらで用意して、現実に不平等な取り扱いが存在する理由を聞く。その理由が施策のうえで解決していかなければいけないことに結びつくのではないか。</p> <p>2 つめは意識レベルの問題で、女性の職業と結婚と育児に関する理想と現実ということで、「中断再就職型」、「職業継続型」、「結婚せずに職業を続ける」というような女性の生き方、働き方について男女共に聞いて、男女の意識の違いを浮き立たせる。それは女性の職業と結婚と育児ということに対して、男性が相変わらず「中断再就職」を望んでいるかどうかということと、女性自身の意識の差があるとすればどうなのかということと、女性の働く問題と結婚・育児に関する意識についての項目を用意してはどうか。</p> <p>もう 1 つは職業と育児を両立できる環境づくりで、実際行政が環境づくりとしてどういうことを用意したらいいのかというようなことで、「子どもを持って働くということに対して当たり前というイメージを持たせるような環境づくりの推進」とか、「保育施設の充実」とか、行政が職業と育児を両立できる環境づくりのために行政に望むこととこの項目をあげて聞く。</p> <p>さらにもう 1 つは、「男女がいきいきと働くために行政がなすべきことはいったいどんなことなのか」行政への要望を聞く、「育児休業」、「介護休業」</p>
----	---

<p>委員</p>	<p>などの制度、「時短」など一般的によくいわれている国レベルのことで、西 東京市独自のものがあれば入れ込む。 新しい働き方についての設問が盛り込めないで、職業に関しては特にフェ イスで聞くときに、「自営」_」「フルタイム」_」「パートタイマー」_」「在宅ワー カー」_」「派遣」_」「派遣契約社員」_」を属性のところで聞いていただいて、新 しい働き方のところで、そういう形態が広がっているというのが見えればい いのではないかとということで、そこは項目に盛り込むのは難しいということ になった。 先程の実態をたずねるところで、「離職した理由」として、男女別に離職理 由についても聞く。男性と女性では離職理由が違うのでそこからの施策と繋 げることもでてくるのではないかと。 後2つは社会参画に関して、「田無市と保谷市で女性行動計画があったこと を知っているかどうか」_」「審議会などの委員の任用に対して、女性委員を増 やすことを進めようとしているが知っているかどうか」というような、社会 参画と施策を結びつけるような認知度を聞いて、その後「女性の社会参画を 阻害する要因」ということを項目をあげて聞く。 うまくまとまらなかった。とりあえず2つほど案は出ている。 1つめは、簡単に言ってしまうと、「どんな社会にしたいか」を聞きたいと いうことで、この場合それだけだと曖昧な回答とか選択肢にしかならないと 思うが、そこで1つの意見として仮定をつくってしまって、現在どちらか という男性の方が優位だとか想定をしたうえで、なおかつ、どんな社会に したいかという部分を自分にとってはというよりは、子ども、次世代の人た ちにとってどんな社会であってほしいかというようなものを問いかけられ ないか。選択肢とかまでは細かく詰めてない。例えばとしては「女性が家事 とか育児をして男性が外で働く」_」、そういうような選択肢をいくつか並べて その中から選んでもらうというような形のもの。 就労や少子などと絡んでくる部分があると思う。 もう1つは、これもある1つの仮定をしてしまって、例えば、「あなたは30 歳の女性だとします」ということで、そういうふうにしてもらう、そこか らそのあと「どんな生き方をしたいか」というところにつながる。どうい うことを聞いていくかということ、大きく3つほど出てきて、「結婚しているか いないか」_」「出産しているかいないか」_」「就労しているかいないか」_」、3つ でイエス、ノーを組み合わせていくことで、その人がどういうふうに生きた いかが見えてくるかと思う。それだけではあまりにも不十分なので、それに プラスしたような形で、「なぜ」_」「どうして」というのが付け加えられるの であればということになる。さらに、以前の保谷市のアンケートで「男女平 等についてお尋ねします」というものがあつたが、「男女の地位は平等にな っていると思いますか」というアンケート、このへんをうまく組み合わせ てデータが出てくればという話をしていた。 アンケートの後の方に話した内容の中に、できれば役割分担意識のところを うまく組み込めないかという話をした。 なにぶんアンケート的な技術というところがうまく出せず、とりあえず大雑 把なこういうものを聞きたいということまでしかいってなく申し訳ない。 大きく分けて「どんな社会にしたいか」的なものと、女性の「今後どんなふ うに生きたいか」という2つをとということで今のところなっている。 「性」と人権のところ1つ言い忘れたが、セクシュアリティの問題につ いて。前から話があつたが、今回のアンケートには直接載せず、何か当事者 の方に伺うとか、あるいは計画をつくったときにセクシュアリティに関して</p>
<p>委員長</p>	<p></p>

<p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>はそれも差別の問題として考えているんだということを、必ず入れなければ ならないということは認識しているが、今回のアンケートに反映させるの は、なかなか設問づくりが難しいと考える。</p> <p>みなさんのご協力もあり、9時少し前に各グループの内容の報告をしていた だいた。最後に次回に向けての予定確認ということで、21日頃に事務局か ら会議録とみなさんから出た案を反映した調査票案が事前送付されるとい うことになっている。21日まで1週間ぐらいあるが、その間に今日出たも の以外に送ってもいいか、それともここまでということの方がいいか。</p> <p>よりいいものにするためのアイデアはどんどん受けたいと思う。 グループを越えてもいい。</p>
<p>委員長</p>	<p>今後について当初の予定では、25日にアンケート項目が固まれば、12月中 に調査票の印刷であるとか調査対象の抽出、宛名ラベルづくりなどを行い、 1月早々にアンケート発送という日程である。アンケート実施中の1月にど ういう会議が必要か、あるいは1月末か2月初めぐらいに単純集計、速報 値が出てきた段階まで当座やることあるのかなのか、25日アンケート 案がまとまった段階で、12月、1月中に何をしておかないといけないか という議論も含めて今後の日程について相談したい。</p> <p>予算編成時期でもあり、今日の会議の開催通知の末尾に15年度の会議の進 め方についてご意見があればお聞かせいただきたいということで付け加え ていたが、お一人ご意見をいただいた。それを取り入れるかどうかは事務局 で相談をしたい。</p> <p>来年度の進め方その他についても、例えば当初の日程の中に市民のワークシ ョップとか、会議の開催といったものがあつたので、それらを中心に15年 度についての予算項目を考えていきたい。</p> <p>資料の最初のページの上に4つ太字で書いてあるところをもう一度参考に していただいて、よりよい意見、アイデアがあればこれを踏まえたものと してお願いします。</p>